

ハート



八代市教育サポートセンター
やつしろ子ども支援相談室便り
令和2年 11月号



子育ての「ノロイ」を解きほぐす

Web 日本評論(2019)に、発達心理学者の赤木重和さんが、「ノロイ」という言葉とは裏腹に、やさしく子育ての「気がかり」について語っておられるのを見つけました。

第1回の評論は、小学校の特別支援学級の授業場面から始まっています。発達障害の子供と関わる心理学者の温かいまなざしが、私たちにかけられた「ノロイ」をやわらかくしていきます。

カズホくん(仮名)に、担任の先生が算数の問題を出していました。問題は「 $18 + 3 = ?$ 」でした。先生としてはできるとして出したのですが、カズホくん、答えにつまってしまいました。

みなさんが担任の先生なら、このときどうしますか？ 多くの場合、「21」という答えを導くためのヒントを教えるのではないのでしょうか。8+3に分解して考えさせたり、積み木を使って具体的に考えさせたりなどです。私も、当たり前のように、どういうヒントがいいかな…と考えていました。

ところが、担任の先生は違いました。興奮して、「そうや、それが考えるってことや！ よう考えてるなあ」と、カズホくんに声をかけたのです。



私は「エッ！」と思うと同時に、ハッとしました。答えにつまるということは、考えているということですよね。考えることの大事さを見抜く先生の視点に、私はハッとしました。もう1つハッとしました。私たちは、「できることがよい」というノロイにとらわれているんだとハッとしました。

私たちの多くは、「できることがよい」と当たり前のように考えています。だからこそ、子どもが「 $18 + 3$ ができない」ことを目の当たりにすると、「できる」ようにしようと必死で考えます。「できること」は大事です。でもノロイでもあります。なぜなら、「できること」に縛られて、子供の「考える」という大事な姿が見えなくなってしまうっていましたよね、私たち。

子育ても同じです。子どもの幸せを願うあまり、私たちは「できること」に縛られていることが多いように思います。私も、親として、わが子にできることが増えてほしいなあと思います。英語が話せるようになってほしい、友だちがたくさんできてほしい…。でも、それだけだとノロイですよねと、この先生は教えてくれています。

「できることがよい」というノロイは、子どもの素敵な思いや悩みを見えなくさせる可能性があります。「できないけど考えている」「できないけど頑張っている」「できるけど無理している」……そんな子どもの思いが見えなくなるのが、親子にとって実は一番怖いことなのかな、と思います。

「できる／できない」の手前で、子どもは何を願い、何を悩んでいるのか。ノロイをほぐして、そこを見つけるやわらかな視点をもちたいものです。そのまなざしは、子どもに届き、子供の心をやわらかくしていきます。

「やつしろ子ども支援相談室」のご案内

やつしろ子ども支援相談室では、八代市内の幼稚園、小・中・特別支援学校に通園・通学されている子供さんに関する相談を受け付けています。

子供さん本人でも、ご家族の方でも、気軽にご相談ください。

○ 電話での相談 TEL 0965-30-1669 時間：13:00～17:00(土日・祝日を除く)

○ メールでの相談 メールアドレス：kodomo-sien@yatsushiro.jp
※ メールは終日受信しますが、土日・祝日等すぐに返信できない場合があります。

○ 面談での相談 まずは、電話で日時を予約してください。連絡先：0965-30-1669

〈来所される住所〉八代市千丁町新牟田 1502 番地 1 号 千丁支所 2 階 子ども支援相談室

